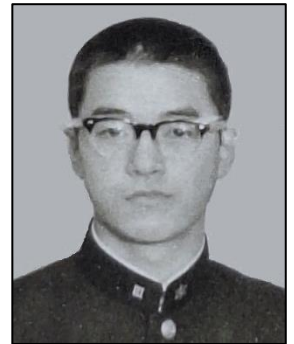


昭和43年3月卒業
宮沢孝司

以前高田商業高校創立80周年記念誌に、私の高校生活3年間の思い出を綴った拙い文章を掲載させて頂きましたが、今般あらためて、高田商業の同窓生の一人として、高校卒業後どんな人生を歩んできたかまとめてみたらどうかというお誘いを受けました。私個人のちっぽけな人生などと思いましたが、同窓生にこんな人間がいたということを知っていただくのも悪くないかなと思ひ直し、筆を取ることにしました。



卒業を控え自分の将来の職業について悩んでいた時に、ある先生が世の中に公認会計士という資格があるという話をして希望を与えて下さいました。高田商業を卒業後、セイコー貿易という小さな貿易商社に就職するとともに、お話のあった公認会計士を目指して中央大学商学部の夜間部に籍を置きました。大学では会計学のゼミに入りましたが、そこには会計士や税理士を目指す仲間が多くいて励みになりました。

大学3年次終了と共に勤めていた会社を辞め、会計士試験に専念することになりましたが、それでは食べて行けないので暫く簿記学校の講師をやりました。担当したクラスに酒井和歌子（当時清楚な人気女優）に似た美人の生徒がいたので講義にもつい熱が入りました（彼女とは勿論何もありませんでしたが。残念）。

公認会計士の試験制度は私が受験した頃とは大きく変わりましたが、当時は1次から3次まで3段階ありました。第1次試験は大学を卒業すると免除されるので第2次試験がメインの試験で、簿記、財務諸表、原価計算、監査、経営学、経済学及び商法の7科目、第3次試験は2次試験合格後実務補習1年、業務補助2年を経て受験資格ができ、筆記試験（財務監査、財務分析、法人税等税法及び論文）と口述試験に合格してようやく公認会計士になることができました。私が2度目の受験で合格した昭和48年度の2次試験は受験者数が4,894人、合格者数が331人、合格率が6.8%でした。

2次試験合格後、会計士補として外資系のアーサーヤング会計事務所（現アーノスト・アンド・ヤング(Ernst & Young、略称EY)／EY新日本有限責任監査法人）に入り、実務補習1年、業務補助2年を経て3次試験に合格し晴れて公認会計士の登録をしました。登録番号は5,897番、つまりこの当時の会計士は全国でこの程

度の人数でした。その後時代の要請を受けて受験者も合格者も大幅に増え、2023年12月末現在の日本公認会計士協会の会員数は35,572人となっています。

昭和48年の11月に入ったアーサーヤングでは日本マクドナルドの監査を担当することになりました。当時、マクドナルドはハンバーガー用の肉を愛媛県松山市の冷凍倉庫に保管しており、その在庫の確認（棚卸）のため生まれて初めて飛行機に乗りました。

また、その年の大晦日にはマクドナルドの東京駅地下街や王子にあった店の棚卸に駆り出され、閉店後に店にあるパンや肉、コカコーラ等の在庫を数えました。その作業が終わってアパートに帰るとNHKの紅白歌合戦で「とり」がその年最後の歌を歌っており、たいへんなところに入っちゃったなというのが実感でした。

ただ、夏休みは比較的長く取れ、職場の同僚と昭和50年に北海道旅行、昭和51年に九州旅行に行きました。九州旅行で移動中に偶然、我が高田商業と甲子園で対戦する宮崎県の福島商業の応援団を乗せたバスとすれ違いました。高田商業はその試合で福島商業に10対7で劇的勝利をあげ大喜びをしたことが記憶に残っています。

3次試験に合格して公認会計士の登録をした昭和52年5月に初めての海外出張に行きました。アメリカのスペリーランド（現ユニシス）という会社が日本の証券取引所の外国部に上場することになり、そのために日本の会計士による監査が必要とされたからです。同社の拠点がニューヨークとフィラデルフィアにあり、その2都市で監査を行いました。仕事が終わった後はサンフランシスコに寄って市内観光をして帰りました。

アーサーヤングではアメリカの事務所での実務研修（トレーニー）の制度があり、私はたまたまテキサス州のダラスに昭和54年8月から1年間派遣されました。ダラスに関してはケネディ大統領が暗殺された砂漠の街というイメージしかなく行くのを辞退しようかとも思いましたが、行ってみると高層ビルが林立する大都



東京ミッドタウン日比谷／EY Japan 社拠点



左後ろの黒いビルがAY本社／1977年NY

会で緑も多く、住んでいる人たちもおおらかで優しく、テキサス訛りの英語には戸惑いがありましたが楽しい1年間を過ごすことができました。

また、昭和59年8月から4年間ニューヨークに駐在しました。ニューヨークでは主に日系企業の現地法人の会計監査や税務相談、米国会計に関するアドバイスなどを行います。当時はバブル景気を背景に日本の会社に勢いがあり、ジャパン・アズ・ナンバーワンともてはやされ、ロックフェラー・センターやティファニーの本店ビルなどを買収し大きな話題になりました。

昭和63年の9月末に帰国した後は、平成22年に60歳で定年退職するまで東京勤務でしたが、担当した会社に海外拠点が多く、ほぼ毎年海外出張がありました。

海外出張中のできごとで記憶に残るのは、平成元年（1989年）の11月にローマに行っていた時にベルリンの壁が崩壊したこと（その翌々年にベルリンへ行ったら壊れた壁の破片を売っていたので記念に買ってきました。本物かなあ？）と、平成9年（1997年）9月にロンドンに行っていた時にダイアナ妃の国民葬に遭遇したことです。ブラジルにも行きアマゾン川も見て来ました。この原稿を書くにあたって改めて確認したところ、在職中に訪問した国は24カ国になります。



ベルリンの壁の破片



1991年 ベルリンにて/ドイツ



1997.9.8 工場視察/ロンドン



2012.5 夜のEY(Ernst & Young)社/NY

<在校生の皆さんへ>

高田商業での出会いがきっかけとなり、私は公認会計士という職業を選びました。公認会計士は、監査・会計及び経営に関する専門的知識と豊富な経験を生かし、企業が作成した財務諸表の監査を行い、独立した立場から監査意見を表明しその情報の信頼性を確保することにより、企業の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護を図り、資本市場に対する信認を確保し、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命としています。

公認会計士はまた、(税理士登録をしたうえで) 税務業務を提供したり経営コンサルティングを行うことにより、健全な経済社会の維持と発展に寄与します。

監査・会計のプロフェッショナルである公認会計士の仕事の魅力は、応用範囲が広く、経済社会のあらゆるシーンで力が発揮できることです。

公認会計士という道を選ぶことにより、監査業務で活躍する、株式公開支援の場で活躍する、ビジネスアドバイザーとして活躍する、独立開業して活躍する、監査法人でグローバルに活躍する、組織内会計士として活躍する等々プロフェッショナルとして社会に貢献し、自らの人生も大きく切り拓いて行くことができます。

高田商業を卒業した後こんな人生を歩んできました。私の経験が、いささかなりとも在校生の皆さんの今後の進路選択や人生設計の参考になれば幸甚です。

終わりに、母校高田商業高校の益々の発展と職員及び卒業生並びに在校生の皆さまの御活躍と御健勝をお祈り申し上げ結びといたします。



2000.10.4 ロンドンにて